

外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/06/06

トリシェ・コード「強い警戒感」がカギ

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	トリシェ発言と株価動向に注目 予想レンジ: 114.80 ~ 119.00 円	2-3
ユーロ/ドル	➡	ECB理事会がカギに 予想レンジ: 1.4250 ~ 1.4850 ドル	4-5
ポンド/円	➡	他の通貨ペア次第の「他力本願相場」 予想レンジ: 130.00 ~ 134.40 円	6-7
ポンド/ドル	➡	ドル売り材料に反応しやすい? 予想レンジ: 1.6270 ~ 1.6600 ドル	8-9
経済指標 カレンダー		一週間の予定を一覧で表示	10-11

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 5/30~6/3までの主な推移



5/31 Tuesday	米紙が「ドイツがギリシャ債務の早期再編要求の撤回を検討」と伝えた事が材料視され、ユーロが上昇。さらに格付け会社ムーディーズが日本の格付けを従来の「Aa2」から引き下げ方向で見直す事を発表すると円売りが強まり、ユーロ/円は117.80円の高値を付けた。(①)
6/1 Wednesday	野党から菅内閣に対する不信任案が提出される見通しとなった事を嫌気して円が売られると、ユーロ/円は一時117.69円まで上昇する場面もあったが、その後発表された米5月ADP全国雇用者数は前月比3.8万人の増加にとどまり、予想(17.5万人増)を大きく下回った。また、米5月ISM製造業景況指数も予想(57.1)を下回る53.5となった。これらの経済指標の結果を受けてドル/円が下落した事や、米国株が急落した事によるリスク回避の動きからユーロ/円は115.75円まで下落した。(②)
6/2 Thursday	スペインの国債入札が順調に消化された事や欧州中銀(ECB)のトリシェ総裁が、ユーロ圏諸国の財政問題に介入権限を持つ「EU財務省」の創設を提案した事を受けて、ユーロが上昇。さらにその後、ユーロ圏高官の話として「ギリシャに対して、追加支援を含む新たな3カ年調整プログラムで原則合意した」事が伝わるとユーロ/円は117.33円まで上昇した。(③)
6/3 Friday	米5月雇用統計は、事前予想では失業率が8.9%、非農業部門雇用者数が16.5万人増のところ、失業率が9.1%(前回9.0%)、非農業部門雇用者数は5.4万人増(前回23.2万人増)となった。弱い雇用統計を嫌気したドル売り・円買いと米国株下落の影響からユーロ/円は大きく値を下げ、115.91円の安値を付けた。(④)しかしその後、米5月ISM非製造業景況指数が54.6と前回(52.8)や予想(54.0)を上回った事を受けてドル/円が急反発。また、NYダウ平均株価も安値から切り返す動きとなった事もあって、ユーロ/円は117.57円の高値まで反発した。

上昇要因(ユーロ高・円安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ユーロ安・円高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題
- 欧州金融機関に対する懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

今週の見通し

先週のユーロ/円相場は115.20円～117.39円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約1.5%の上昇(ユーロ高・円安)となった。ギリシャの債務再編が短期的には回避される見通しとなった事もあって、ユーロ相場の焦点は、9日の欧州中銀(ECB)理事会に向けられる事になりそうだ。トリシェ総裁が、理事会後の会見で「強い警戒感(strong vigilance)」との文言を使い7月の利上げを示唆すればユーロは一段高が予想される一方で、「非常に注意深く監視」との表現にとどめるなど、インフレ警戒の姿勢を残しつつも次回会合での利上げを見送るサインを送るようだと、ユーロ安が進む可能性もある。その他、主要国株価や国際商品価格の動向にも注意が必要であろう。米国や中国の景気減速懸念を背景に、株価や原油価格の弱含み推移が続くようだと、ユーロ/円の下落圧力となる事も考えられる。(神田)

(予想レンジ:114.80～119.00円)

テクニカル分析



●ユーロ/円 6/03週足引値:117.39円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)ユーロ/円は、88.93円(2000/10安値)から169.95円(2008/07高値)へと81.02円上昇したあと、大きく下落した。それから、105.42円(8/24)を安値、115.97円(3/04)を高値にもみ合ったあと、4/11に123.33円まで上昇して以降は揉み合い推移となっている。先週のユーロ/円は5/31に高値117.80円を見たが、その後は揉み合いの方向感のない展開となった。取引値は20日線(115.76円、6/03)、200日線(113.40円、6/03)よりも上値にあるが、60日線(117.26円、6/03)とは交錯している。ボリンジャーバンドは6/03現在、上限:117.63円～下限:113.90円で、取引値はバンド上限を少し押し上げる形で上昇し、下限はやや下落している。動きエネルギーが溜まっている相場であり、120円方向への動きが展望できるが、動き自体が速いか遅いかは何とも言えない。(ストキャスの力が買いになってきている)。上値ポイントは、①117.59円(5/6高値)、②117.80円(5/31高値)、③118.49円(4/29安値)、④121.81円(4/28高値)、下値ポイントは①113.87円(5/23安値)、②113.39円(5/16安値)、③113.40円(200日線、6/03段階)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 5/30~6/3までの主な推移



<p>5/31 Tuesday</p>	<p>米紙が「ドイツがギリシャ債務の早期再編要求の撤回を検討」と伝えた事が材料視され、ユーロが上昇。また、ユーロ圏5月消費者物価指数・速報は前年比+2.7%と予想(+2.8%)をやや下回ったものの、欧州中銀(ECB)の緩やかなインフレ目標とされる「2%未満」は大きく上回った。次期ECB総裁が決定的となっているドラギ伊中銀総裁が「ソブリン問題がECBの眼を物価安定からそらすことはない」「物価リスクは政策正常化の必要性が増す事を意味する」などと述べた事が伝わった事もあってユーロ/ドルは1.4423ドルまで上昇した。(①)</p>
<p>6/1 Wednesday</p>	<p>米5月ADP全国雇用者数は前月比3.8万人の増加にとどまり、予想(17.5万人増)を大きく下回った。また、米5月ISM製造業景況指数も予想(57.1)を下回る53.5となった。これらの経済指標の結果を受けてドル売りが強まると、ユーロ/ドルは1.4458ドルまで上昇したが、その後は、米国株が大幅に下落した事によるリスク回避の動きから1.4320ドルまで下落した。(②)</p>
<p>6/2 Thursday</p>	<p>ECBのトリシェ総裁が、ユーロ圏諸国の財政問題に介入権限を持つ「ユーロ圏財務省」の創設を提案した事を受けてユーロが上昇。さらにその後、ユーロ圏高官の話として「ギリシャに対して、追加支援を含む新たな3カ年調整プログラムで原則合意した」事が伝わるとユーロは続伸。さらに格付け会社ムーディーズが「債務上限引き上げ交渉に進展がなければ、米国の格付けを引き下げ方向で見直す」との見解を示した事もユーロ買い・ドル売り材料となり、ユーロ/ドルは1.4513ドルまで上昇した。(③)</p>
<p>6/3 Friday</p>	<p>米5月雇用統計は、事前予想では失業率が8.9%、非農業部門雇用者数が16.5万人増のところ、失業率が9.1%(前回9.0%)、非農業部門雇用者数は5.4万人増(前回23.2万人増)となった。弱い雇用統計を嫌気してドル売りが強まると、ユーロ/ドルは1.4531ドルまで上昇したが、直後には時間外のNYダウ先物の急落につれて、1.4451ドルまで下落するなど荒い値動きとなった。しかしその後、ユンケル・ユーログループ議長が「ユーロ圏は新たなギリシャ支援策を承認した」と発言した事が伝わると、ユーロ/ドルは1.4643ドルの高値を付けた。(④)</p>

上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米国の超低金利長期化観測

下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題
→欧州金融機関に対する懸念
- ・ドル金利の先高観

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.4256～1.4643ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約2.3%の大幅上昇(ユーロ高・ドル安)となった。3日に発表された米雇用統計が弱かった事もあり、今週もドル安ムードが続くそう。9日に行われる欧州中銀(ECB)理事会で、トリシェ総裁が「強い警戒感(strong vigilance)」との表現を復活させ、7月利上げを示唆するとの観測もユーロを支えそう。ただ、ユーロ/ドルは、5月23日の安値1.3968ドルから、2週間で700ポイント近く(約4.8%)も上昇。3日に発表された5月31日時点のシカゴ通貨先物での買い持ちポジションが8万枚超(売り持ちとの差し引きでは2万枚超)に増加するなど、やや行き過ぎ感もある。もし、トリシェ総裁がインフレ警戒文言を引き続き「非常に注意深く監視」にとどめた場合、7月の利上げ観測が後退し、ユーロが急速に弱含む可能性がある点には注意が必要であろう。(神田)

(予想レンジ:1.4250～1.4850ドル)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/ドル 6/03週足引値:1.4633(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ユーロ/ドルは超長期で見ると、0.8234(2000/10安値)と1.6037(2008/07高値)の幅の中、半値である1.2136を割り込んで2010/6/07に1.1874の安値を見た。その後は11/04高値1.4283⇒1/10安値1.2873⇒5/04高値1.4940⇒5/23安値1.3968⇒6/03高値1.4643となっている。現状の取引値は60日線(1.4329、6/03)、20日線(1.4261、6/03)、200日線(1.3742、6/03)よりも上値に位置している。ボリンジャーバンドは6/03現在、上限:1.4555～下限:1.3966であり、ボリンジャーバンドの上限は取引値が押し上げる形で上昇し、下限は下落している。これを見るとユーロ/ドルの現在の上昇はトレンドであると言える。先週一週間はすべて上昇推移となった。上昇に勢いがついている。戻り高値を売りから入るのは相当に危険であり、少しでも押し目があれば買い先行で行きたい。上値ポイントは①1.4800(前回上昇時の下値支持線)、②1.4940(5/04高値)。下値ポイントは①1.4425(5日線、6/03段階)、②1.4120(90日線、6/03段階)、③1.3907(1.2873-1.4940、今年の安値-高値の50%)【最重要】である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 5/30~6/3の主な推移



5/31 Tuesday	早朝に米紙ウォールストリートジャーナル(WSJ)が「ドイツがギリシャに対して早期債務再編を強要することを止めることを検討」と報じたことを受けユーロ/円が上昇すると、ポンド/円も連れて上昇。さらに正午前、格付け会社ムーディーズが「日本の格付け(Aa2)を引き下げ方向で見直す」と発表すると円が急落し、夕方までこの流れが続くと、ポンド/円は135.11円の高値をつけた(①)。しかし、その後すぐに反落。さらに、NY市場で米経済指標が予想より弱い結果だったことでドル/円が値を下げると、ポンド/円も連れ安となり、133円台半ばまで上げ幅を縮小した。
6/1 Wednesday	欧州市場序盤に134.32円まで上昇するも、17時28分頃に発表された英5月製造業PMIが52.1と予想(54.1)を下回ったことでポンド/円は下落。133円台半ばでは一旦買い支えられるも、NY市場で米5月ADP全国雇用者数や米5月ISM製造業景況指数が予想よりも悪い結果になり、ドル/円が大きく値を下げると、ポンド/円も連れ安となり、132.00円付近まで値を下げた(②)。
6/2 Thursday	欧州勢がポンド売りで参入したことを受け、夕方に131.78円まで下落したが、17時30分頃発表の英5月建設業PMIが54.0と予想(53.5)を上回ると反発。ユーロ/円の上昇も追い風となり、132.74まで上昇した(③)。その後、NYダウ先物が上げ幅を縮小すると、ポンド/円は131.79円まで下げたが、引けにかけてNYダウ平均やNY原油先物が値を戻すと、ポンド/円も反発した。
6/3 Friday	17時28分頃発表の英5月サービス業PMIが53.8と市場予想(54.2)を下回ったことを受けてポンド/円は下落。さらに、21時30分に発表された米5月雇用統計を受けてドル/円が急落すると連れ安となり、130.66円の安値を付けた(④)。しかしその後、米5月ISM非製造業景況指数が市場予想より良好な結果だったことを受け、ポンド/ドルやドル/円が上昇すると、ポンド/円は132円目前まで反発した。

上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

今週の見通し

今週の英国で発表されるポンド相場の手掛かり材料となりそうな経済イベントは、10日発表の5月生産者物価指数(PPI)および4月鉱工業生産程度。9日にはイングランド銀行(BOE)の政策金利発表も予定されているが、これについては金利据え置きが公算が非常に大きく、BOEの場合は金融政策に変更がない場合は声明の発表も予定されていないことから、無風通過の可能性が高い。ポンド/円はユーロ/円など他の通貨ペアの動きに追随する形の、主体性のない動きがメインになりそうだ。

ただ、英PPIの結果には注目しておきたい。足元では英国の経済悪化懸念が強く、一時期盛り上がった早期利上げ論は一服している状態だが、PPIの結果が予想を上回って上昇していた場合は、再び早期利上げ論が息を吹き返し、ポンドが急騰する可能性もある。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 130.00~134.40円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ポンド/円 6/03週足引値: 131.75円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ポンド/円は、118.76円(2009/01/19安値)から163.04円(2009/08/07高値)まで44.28円上昇した。上記上昇幅のどこまでを下落によって戻すかが焦点だが、すでに安値122.98円(3/17)をつけており、長期的には依然として下落の流れのように見える。

ポンド/円は4/08に高値140.00円をつけてからもみ合いながら下落推移している。現状では、20日線(132.38円、6/03)、60日線(133.43円、6/03)を下回り、200日線(131.83円、6/03)、と交錯する推移となっている。ボリンジャーバンドは6/03現在、上限: 134.05円~下限: 130.71円であり、バンド上限、下限ともに縮小の中、横ばいで推移している。5/31に高値135.11円を見た後、下落気味に推移している。ボリンジャーバンドが拡大しないのを見ると、130~135円でのみみ合いを意識するところ。上値ポイントは①134.05円(ボリンジャーバンド上限、6/03段階)、②135.11円(5/31高値)であり、下値ポイントは①130.71円(ボリンジャーバンド下限、6/03段階)、②130.28円(5/13安値)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 5/30~6/3の主な推移



5/31 Tuesday	早朝にユーロ/ドルが大きく上昇すると、ポンド/ドルも連れて1.6544ドルまで上昇した(①)。しかし、欧州市場で株が伸び悩むとポンド/ドルは上げ幅を縮小。さらに、その後のNY市場で米5月シカゴ購買部協会景気指数が予想よりも悪い結果になったことを受けてNYダウ平均が上げ幅を縮めると、ポンド/ドルは1.64ドル前半まで値を下げた。
6/1 Wednesday	欧州市場序盤に1.6495ドルまで上昇するも、17時28分頃発表の英5月製造業PMIが52.1と予想(54.1)を下回ったことでポンド/ドルは下落(②)。さらに、NY市場で米5月ADP全国雇用者数や米5月ISM製造業景況指数が予想よりも悪い結果になり、NYダウ平均やNY原油先物が大幅に下落すると、ポンド/ドルは1.63ドル前半まで値を下げた。
6/2 Thursday	欧州勢がポンド売りで参入したことを受け、夕方に1.6304ドルの安値を付けたが、17時30分頃に発表された英5月建設業PMIが54.0と予想(53.5)を上回ると反発。ユーロ/ドルの上昇も追い風となり、1.6415ドルの高値を付けた(③)。その後、NYダウ先物が上げ幅を縮小すると、ポンド/ドルは1.6305ドルまで値を下げたが、ユーロ/ドルの反発や、格付け会社ムーディーズが「連邦債務上限引き上げ交渉で7月半ばまでに進展がなければ米国債を格下げも」との見解を示した事を受けてドル売りが強まると、ポンド/ドルは1.63ドル後半まで値を戻した。
6/3 Friday	17時28分頃発表の英5月サービス業PMIが53.8と市場予想(54.2)を下回ったことを受けてポンド/ドルは1.6284ドルまで下落した(④)。21時30分発表の5月雇用統計については予想より弱い結果だったことから発表直後はドル売り優勢となったが、NYダウ先物が下落したことからドルを買い戻す動きもあり、ポンド/ドルは乱高下した。ただし、米5月ISM非製造業景況指数が市場予想より良好な結果だったことでNYダウ平均が下げ幅を縮小し、ギリシャの支援策承認を受けてユーロ/ドルが上昇すると、ポンド/ドルは連れ高となり1.64ドル台を回復した。

上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

今週の見通し

今週の英国で発表されるポンド相場の手掛かり材料となりそうな経済イベントは、10日発表の5月生産者物価指数および4月鉱工業生産程度。9日にはイングランド銀行(BOE)の政策金利発表も予定されているが、これについては金利据え置きの方算が非常に大きく、BOEの場合は金融政策に変更がない場合は声明の発表も予定されていないことから、無風通過の可能性が高い。一方、米国については、重要な経済指標は9日の新規失業保険申請件数と4月貿易収支くらいだが、要人発言の機会が非常に多い。米景気の下ぶれ懸念が強く、量的緩和第3弾の可能性が意識されつつある中では、米連邦公開市場委員会(FOMC)メンバーのハト派的な発言には神経質に反応しそうだ。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.6270~1.6600ドル)

テクニカル分析



●ポンド/ドル 6/03週足引値:1.6422(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見た相場展開)
 ポンド/ドルは、1.3501(2009/01/23安値)から1.7043(2009/08/05高値)まで3542ポイント上昇した。大きなところでは依然としてその安値-高値の中で大きなもみ合いを形成中である。

4/28に直近高値1.6744を見て後、5/24には1.6056まで下落し、5/31には1.6544まで上昇した。

取引値は、200日線1.5972(6/03)、60日線1.6305(6/03)や20日線1.6307(6/03)を上回っている。また、ボリンジャーバンドは6/03現在、上限:1.6528~下限:1.6086であり、バンド幅の上限は横ばいからやや上向き、下限は横ばいになってきている。5/31高値1.6544から下落し、もみ合いに入っている。やや上昇の可能性はあるが、それほど強いものとは言えなさそうだ。1.62~1.66のレンジを想定。目先の上値ポイントは①1.6544(5/31高値)、②1.6528(ボリンジャーバンド上限、6/03段階)、③1.6744(4/28高値)、であり、下値ポイントは、①1.6307(20日線、6/03段階)、②1.6305(60日線、6/03段階)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (6/6~9)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/6	—		香港休場(端午節)、ウェリントン休場(女王誕生日)		
(月)	18:00		(ユーロ圏) 4月生産者物価指数 [前年比]	+6.7%	+6.7%
	21:30		(加) 4月住宅建設許可 [前月比]	+17.2%	—
	23:00	○	(加) 5月Ivey購買部協会指数	57.7	—
6/7	13:30	◎	(豪) RBAキャッシュターゲット	4.75%	—
(火)	14:00		(日) 4月景気動向指数・速報 [先行CI指数]	100.1	96.5
			(日) 4月景気動向指数・速報 [一致CI指数]	103.5	103.7
	18:00	○	(ユーロ圏) 4月小売売上高 [前月比]	-0.9%	+0.3%
		○	(ユーロ圏) 4月小売売上高 [前年比]	-1.7%	+0.1%
	19:00		(独) 4月製造業受注 [前月比]	-4.0%	-2.1%
	26:00		(米) 3年債入札(320億ドル)	—	—
	28:00		(米) 4月消費者信用残高	+60.16億USD	+50.00億USD
6/8	08:50		(日) 4月貿易収支	2403億円	-3732億円
(水)	14:00		(日) 5月景気ウォッチャー調査 [現状判断DI]	28.3	—
			(日) 5月景気ウォッチャー調査 [先行き判断DI]	38.4	—
	15:00		(独) 4月貿易収支	+189億EUR	+143億EUR
	18:00		(ユーロ圏) 第1四半期GDP・改定値 [前期比]	+0.8%	+0.8%
			(ユーロ圏) 第1四半期GDP・改定値 [前年比]	+2.5%	+2.5%
	19:00	○	(独) 4月鉱工業生産 [前月比]	+0.7%	+0.2%
	21:15		(加) 5月住宅着工件数	17.9万件	18.35万件
	26:00	○	(米) 10年債入札(210億ドル)	—	—
	27:00	○	(米) 米地区連銀経済報告(ページブック)	—	—
6/9	06:00	◎	(NZ) RBNZオフィシャル・キャッシュレート	2.50%	—
(木)	08:50		(日) 第1四半期GDP・二次速報 [前期比]	-0.9%	-0.8%
			(日) 第1四半期GDP・二次速報 [前期比年率]	-3.7%	-3.0%
	10:30	◎	(豪) 5月新規雇用者数	-2.21万人	—
	10:30	◎	(豪) 5月失業率	4.9%	—
	17:30		(英) 4月商品貿易収支	-76.60億GBP	-75.50億GBP
	20:00	◎	(英) BOE政策金利発表	0.50%	—
	20:45	◎	(ユーロ圏) 欧州中銀金融政策発表	1.25%	—
	21:30	◎	(米) 6/4までの週の新規失業保険申請件数	42.2万件	—
	21:30	○	(米) 4月貿易収支	-482億USD	-486億USD
	21:30		(加) 4月国際商品貿易	+6億CAD	+3億CAD
	21:30		(加) 4月新築住宅価格指数 [前月比]	±0.0%	—
	23:00		(米) 4月卸売在庫 [前月比]	+1.1%	+1.0%
	26:00	○	(米) 30年債入札(130億ドル)	—	—

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (6/10)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/10 (金)	15:00		(独) 5月消費者物価指数・確報 [前月比]	±0.0%	±0.0%
			(独) 5月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.3%	+2.3%
	17:30	○	(英) 4月鉱工業生産 [前月比]	+0.2%	±0.0%
	17:30		(英) 4月製造業生産高 [前月比]	+0.2%	+0.1%
	17:30		(英) 5月生産者物価指数 [コア:前年比]	+3.4%	+3.5%
	20:00	○	(加) 5月雇用ネット変化	58.3万人	25.0万人
	20:00	○	(加) 5月失業率	7.6%	7.6%
	21:30		(加) 第1四半期労働生産率 [前期比]	+0.5%	—
	21:30		(米) 5月輸入物価指数 [前月比]	+2.2%	-0.7%
	27:00		(米) 5月月次財政収支	-827億USD	-1600億USD

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com